

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 6 日現在

機関番号：15401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23730583

研究課題名(和文) 対人的報酬・罰行動がネットワークや集団パフォーマンスにもたらす影響プロセスの解明

研究課題名(英文) Personal networks and group performance as functions of interpersonal reward and punishment

研究代表者

相馬 敏彦(soma, toshihiko)

広島大学・社会(科)学研究科・准教授

研究者番号：60412467

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円、(間接経費) 990,000円

研究成果の概要(和文)：他者との関わりの中で人は快を追求する接近的な動機をもつこともあれば、不快を防ぐ回避的動機づけをもつこともある。本研究の主たる結果の一つは、快の追求を背景とする接近的動機はそれを反映した接近的相互作用を促すことで関係満足を高める一方、回避的動機はそれとは独立して回避的相互作用を促すことで関係満足を高めるということであった。つまり、接近的動機でなく回避的動機もまた関係満足を高めることが本研究の結果明らかになった。

研究成果の概要(英文)：Individuals with social approach motivation seek to obtain positive outcomes from their social relationships, while individuals with social avoidance motivation seek to prevent negative outcomes. My research showed that individuals with strong approach (/avoidance) motivation reported behaving according to the motivation and were more satisfied with their relationships than were individuals with weak approach (/avoidance) motivation. This results thus suggest that both approach and avoidance motivation can enhance relationship satisfaction.

研究分野：心理学

科研費の分科・細目：心理学・社会心理学

キーワード：社会的動機 伝染 満足 接近 回避 ネットワーク リーダーシップ 公正

1. 研究開始当初の背景

ある対人関係の中で支援的なやりとりをしたり逆に厳しさを伴う相互作用をもったりすることは、それを取り巻くネットワークや集団に対していかなる帰結をもたらすだろうか？本研究は、これまであまり明らかにされてこなかったこの問いに対して、社会的動機づけ研究や当事者と第三者による社会的推論プロセスの違いに関する研究知見を援用してアプローチした。

2. 研究の目的

本研究の第一の目的は、接近・回避動機がどのように対人的な帰結をもたらすのかというプロセスの独立性を明らかにすることであった。第二の目的は、報酬や罰といった社会的動機の効果を、送り手と受け手以外の第三者を含めたプロセスとして理解することであった。本研究では具体的に社会情緒的な関係性と課題関連的な関係性それぞれにおいて検討した。

3. 研究の方法

社会情緒的な関係性について、大学生友人関係の変化を検証できるパネルデータ、大学新生のネットワーク拡大についてのパネルデータ、課題関連的な関係性について医療スタッフ（医師、看護師、事務職）を対象とする大規模調査データを取得した。また、大学生を対象とする質問紙実験、実験室実験を行いデータを取得した。

4. 研究成果

得られた成果は主に以下の4点である。第一に、接近的動機はそれを反映した接近的相互作用を、回避的動機も同様に回避的相互作用を促すことでそれぞれ関係満足を高めることであった。第二に、接近的動機が弱い場合異質性の高いネットワーク拡大には満足しないが、同質性の高いネットワーク拡大には満足しやすい。他方、回避的動機が強い場合、異質性の高いネットワーク拡大にはストレス反応としての摩擦を強く感じるが同質性の高いネットワーク拡大には摩擦をあまり感じないことであった。第三に、接近的動機はその相互作用の展開を促し、結果として相手の接近的動機を高めるという相互影響プロセスがみられる。一方、回避的動機の伝染は接近的動機の高さによって調整されることであった。第四に、上司からの罰の被行使が上司への信頼を高めるのは親しい間柄にある場合であること、一方組織規模が小さい場合、上司による他メンバーへの罰の観察が上司への信頼を高めるのはその罰が公正な場合であることであった。

これらの結果は、社会的動機がその内容によって独立して成果をもたらすこと、ならびにその影響が当事者と局外者とで異なることを示すものであった。さらに、接近的動機と回避的動機とでは適応的な社会的対人環境が異なることも示された。これらは従来の研究では十分に明らかになっていなかった点である。また、回避的動機の充足プロセス

が接近的なものに比して困難であることが繰り返し示された点は実践的にもインパクトをもつものであった。

今後は、これら社会的動機づけをめぐるプロセスがよりマクロな変数においてどのような影響をもつのかを知る必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 28 件)

1. 相馬敏彦, 「親しさ」と「正しさ」に支えられる厳しきリーダーへの評価-罰の受け手と内集団観察者によるリーダー評価プロセスの違い-, 広島大学マネジメント学会ディスカッションペーパーシリーズ, 16, 査読無, 2013, pp. 1-15.

(<http://www.hiroshima-u.ac.jp/mgt/gakka-i/>)

2. 中島健一郎・磯部智加衣・相馬敏彦・浦光博, 集団アイデンティティの変動過程における集団タイプの調整効果, 心理学研究, 第 84 巻 2 号, 査読有, 2013, pp. 162-168.

(10.4992/jjpsy.84.162)

3. 山下倫美・相馬敏彦, 社会的相互作用における接近的・回避的動機づけが対人ネットワークの変化に及ぼす影響, 流通経済大学社会学部論叢, 第 22 巻 2 号, 査読無, 2012, pp. 117-125 頁

(<http://ci.nii.ac.jp/naid/40019322052>)

4. 金政祐司・相馬敏彦・小塩真司・結城雅樹・橋本剛, 拓がる世界、狭まる視界—適応方略の不合理性、不合理な心性の合理性—, 対人社会心理学研究 第 12 巻, 査読有, 2012, pp. 1-22.

(<http://hdl.handle.net/11094/5086>)

[学会発表] (計 31 件)

1. SOMA Toshihiko When does one's avoidant behavior affect a partner's avoidant motivation?: Differences in interpersonal process between male and female. The 10th Biennial Conference of Asian Association of Social Psychology, 21-24 August 2013, Yogyakarta, Indonesia
2. SOMA Toshihiko When does one's avoidant behavior affect a partner's avoidant motivation beyond the intrapersonal process? The 13th European Congress of Psychology, 9-12 July 2013, Stockholm, Sweden
3. 相馬敏彦・清水裕士 ワンランク上のブランド・コミットメントを導くために；拡張版投資モデルをブランド-顧客の関係性に応用して. 日本心理学会第 77 回大会, 9月19-12日 2013年, 札幌コンベンションセンター

4. 西村太志・板倉宣孝・古谷嘉一郎・相馬敏彦・長沼貴美・内田裕之 2013 子育てに関する対人環境認知と養育者の適応との関係 (1) -子育て経験によって生じる感情や評価の仲介過程の検討-. 日本心理学会第 77 回大会, 9 月 19-12 日 2013 年, 札幌コンベンションセンター
5. 板倉宣孝・西村太志・古谷嘉一郎・相馬敏彦・長沼貴美・内田裕之 子育てに関する対人環境認知と養育者の適応との関係 (2) -資質的レジリエンス要因を交えた検討-. 日本心理学会第 77 回大会, 9 月 19-12 日 2013 年, 札幌コンベンションセンター
6. 吉野千里・西村太志・相馬敏彦 脅威状況が伝統的女性に対する印象評価へ及ぼす影響. 日本心理学会第 77 回大会, 9 月 19-12 日 2013 年, 札幌コンベンションセンター
7. 相馬敏彦・野田義頭 「ひいきする」医師からの情緒的支えは患者をつなぎとめるか? 日本社会心理学会第 54 回大会, 11 月 2-3 日 2013 年, 沖縄国際大学
8. 西村太志・古谷嘉一郎・相馬敏彦・長沼貴美・内田裕之 居住地の社会増加率と親との居住距離が子育てへの展望に及ぼす影響. 日本社会心理学会第 54 回大会, 11 月 2-3 日 2013 年, 沖縄国際大学
9. 古谷嘉一郎・西村太志・相馬敏彦・長沼貴美・内田裕之 居住地の社会増加率と周囲の環境評価、文化的自己観が子育てへの展望に及ぼす影響. 日本社会心理学会第 54 回大会, 11 月 2-3 日 2013 年, 沖縄国際大学
10. 山下倫実・相馬敏彦 社会的相互作用における回避的動機づけが友人ネットワークから得られる 2 者関係トラブル時のサポート評価に与える影響. 日本社会心理学会第 54 回大会, 11 月 2-3 日 2013 年, 沖縄国際大学
11. 相馬敏彦・西村太志・高垣小夏 攻撃的な人が不味い飲み物を与えるとき. 第 60 回日本グループ・ダイナミクス学会大会, 7 月 14-15 日 2013 年, 北星学園大学
12. SOMA Toshihiko Individuals with high avoidance motivation are fatigued with network heterogeneity, but those with high approach motivation are satisfied. The 13th Annual Society for Personality and Social Psychology Meeting, 26-28 January 2012, San Diego, America
13. 相馬敏彦・磯部智加衣 社会的動機はどのように個人を超えた影響をもつか? 日本社会心理学会第 53 回大会. 11 月 17-18 日 2012 年, つくば国際会議場.
14. 和田良香・相馬敏彦・佐藤陽子 総合病院の外来における組織マネジメントに関する研究-第二報-. 第 50 回日本医療・病院管理学会学術総会, 10 月 18-19 日 2012 年, 学術総合センター.
15. 長沼貴美・古谷嘉一郎・西村太志・相馬敏彦・内田裕之 子育て完全主義と対人環境認知が養育態度に及ぼす影響 (2) -子ども志向的完全主義に着目して-. 日本パーソナリティ心理学会第 21 回大会, 10 月 6-7 日 2012 年, 島根県民会館.
16. 古谷嘉一郎・長沼貴美・西村太志・相馬敏彦・内田裕之 子育て完全主義と対人環境認知が養育態度に及ぼす影響 (1) -自己志向的完全主義に着目して-. 日本パーソナリティ心理学会第 21 回大会, 10 月 6-7 日 2012 年, 島根県民会館.
17. 相馬敏彦・西村太志・古谷嘉一郎・長沼貴美・内田裕之 支えとなるのは同質な他者でも異質な他者でもある? -育児サポート・ネットワークにおける同質性と異質性の効果-. 第 59 回日本グループ・ダイナミクス学会大会, 9 月 22-23 日 2012 年, 京都大学.
18. 古谷嘉一郎・西村太志・長沼貴美・相馬敏彦・内田裕之 子育て情報収集行動が適応に及ぼす影響過程-情報通信機器と対人環境認知に着目した検討-. 第 59 回日本グループ・ダイナミクス学会大会, 9 月 22-23 日 2012 年, 京都大学.
19. 板倉宣孝・西村太志・古谷嘉一郎・相馬敏彦 親の養育態度が援助行動の意図に及ぼす影響-震災後の状況を考慮した検討. 日本心理学会第 76 回大会, 9 月 11-13 日 2012 年, 専修大学.
20. 西村太志・古谷嘉一郎・相馬敏彦・長沼貴美・内田裕之 子育てに関する対人環境認知と養育者の適応、養育態度の関連-養育する子どもに発達障害の疑いがあるか否かによる比較検討-. 日本心理学会第 76 回大会, 9 月 11-13 日 2012 年, 専修大学.
21. 江口圭一・小玉一樹・相馬敏彦・原口恭彦 多職種間のチームワークの認知が職務満足と転職意志に及ぼす影響: 医療機関における検討. 産業・組織心理学会第 28 回大会, 9 月 1-2 日 2012 年, 文教大学.
22. SOMA Toshihiko What social motivation of people does or doesn't favor dense network? The 12th European Congress of Psychology, 4-8 July 2011, Istanbul, Turkey.
23. SOMA Toshihiko Does having separate networks impair the quality of a relationship? The 12th Annual Society for Personality and Social Psychology Meeting, 27-29 January 2011, San Antonio, America.
24. 西村太志・相馬敏彦 養育者の対人ネットワークサイズと時間的制約感が子育ての仕方に及ぼす影響. 第 52 回日本社会心理学会大会, 9 月 17-18 日 2011 年,

名古屋大学.

25. 山下倫実・相馬敏彦 社会的相互作用における接近・回避的動機づけが共通ネットワークの変化に及ぼす影響. 第 52 回日本社会心理学会大会, 9 月 17-18 日 2011 年, 名古屋大学.
26. 相馬敏彦・磯部智加衣 異質なネットワークにくたびれる回避動機者、満たされる接近動機者. 第 52 回日本社会心理学会大会, 9 月 17-18 日 2011 年, 名古屋大学.
27. 相馬敏彦・山下倫実 回避動機が満たされれば安心できる?—社会的相互作用における接近・回避的動機づけが関係で経験される感情に及ぼす影響—. 第 75 回日本心理学会大会, 9 月 15-17 日 2011 年, 日本大学.
28. 長谷川孝治・相馬敏彦 安心さがしと社会的動機づけが他者からの拒絶に及ぼす影響. 第 58 回日本グループ・ダイナミックス学会大会, 8 月 23-24 日 2011 年, 昭和女子大学.
29. 相馬敏彦・山下倫実 2011 回避動機は不満をもたらすばかり? 社会的相互作用における接近・回避的動機づけが関係への評価に及ぼす影響. 第 58 回日本グループ・ダイナミックス学会大会, 8 月 23-24 日 2011 年, 昭和女子大学.

〔図書〕(計 3 件)

1. 広島大学マネジメント研究センター編 白桃書房 連携による知の創造: 社会人大学院の新たな試み「厳しきリーダーが信頼される条件—医師、看護師、医療事務職を対象とする調査データから—」 2014 年 pp. 23-25.
2. 大坊郁夫・谷口泰富編 福村出版 現代社会と応用心理学 2 クローズアップ恋愛 「家庭内暴力」「離婚」 2013 年 pp. 173-190.
3. 日本発達心理学会編 丸善出版 発達心理学事典「ドメスティック・バイオレンス」 2013 年 pp. 210-211.

〔その他〕

ホームページ等

<http://www16.ocn.ne.jp/~hikochan/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

相馬 敏彦 (SOMA TOSHIHIKO)

広島大学・大学院社会科学研究所・准教授

研究者番号: 60412467